

## 北山友松子 医案②

予、平野庄の一民を治す。傷風、発熱、口燥（かわ）いて渴し、水を与えれば吐す。後には薬湯を服してまた吐す。諸医、手を袖にし、予に治を請う。之を脈するに浮数。『傷寒論』に曰く、「中風、六七日解せずして煩し、表裏の証あり。渴して飲水を欲すれど、水入れば即ち吐する者は、名付けて水逆と言う。五苓散これを主る。」の言を記得す。遂に五苓の末を以て白飲を以て和す。服すること一七日にして知り、而して三七にして已ゆ。